



序章



基本構想編



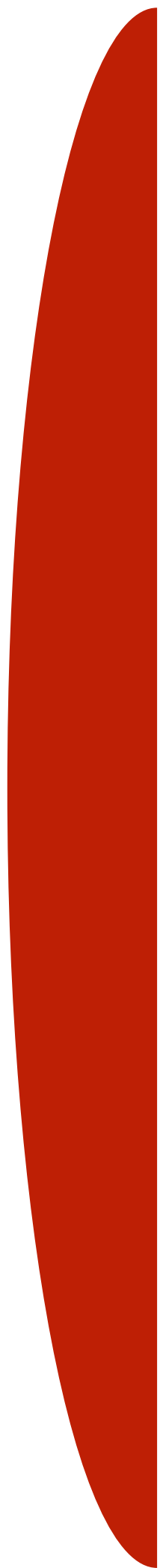
基本計画編



目標指標



参考資料



序章



1 第2次輪島市総合計画策定の趣旨

本市は、平成19年3月に策定した第1次輪島市総合計画（以下「第1次総合計画」という。）において、平成28年を目標年次とする市の将来像、まちづくりの基本的な考え方を示した基本構想と取り組む施策を基本計画として2編にとりまとめました。基本計画は、平成19年度から平成23年度までを「前期」、平成24年度から平成28年度までを「後期」として位置づけ、目まぐるしい速度で変化する社会情勢等を考慮し、平成24年度に基本構想に示した将来像を実現するため、「後期基本計画」を策定しました。

さらに、平成27年度には、国が掲げる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）等を勘案しつつ、本市における課題や地域特性を踏まえ、平成27年から31年度までの5年間における本市独自の「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」をとりとまとめたところです。

こうした中、第2次輪島市総合計画（以下「本計画」という。）では、第1次総合計画及び総合戦略で掲げた政策分野の重要性を尊重し、基本的な考え方を踏襲しつつ、本市らしさを今後10年間の施策展開に活かし、よりよい成果が得られるよう、基本構想と基本計画の2編により、諸施策のあり方をとりまとめることとしました。

2 計画の期間と構成

(1) 計画の期間

基本構想は、平成 29 年度 (2017 年度) を初年度とし、平成 38 年度 (2026 年度) を目標年次とする 10 年間の計画とします。

基本計画は、平成 29 年度から平成 33 年度までを「前期」、平成 34 年度から平成 38 年度までを「後期」と位置付け、5 年間の計画とします。

(2) 計画の構成

総合計画は、基本構想及び基本計画により構成します。

基本構想では、市のまちづくりの基本理念や市の将来像及びまちづくりに取り組む基本的な考え方を示します。

基本計画では、基本構想を実現していくための施策を体系的かつ具体的に示します。

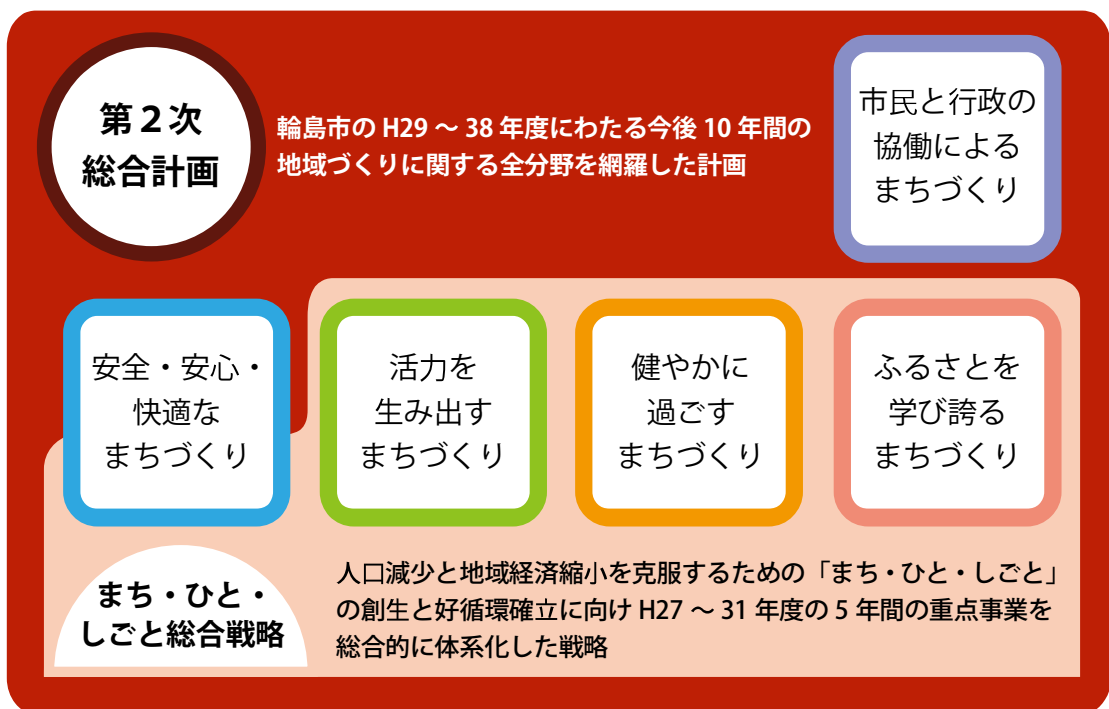


3 総合戦略との関連

本計画と総合戦略は、相互に政策的な整合を図りつつ、よりよいまちづくりに向けたあるべき姿と諸施策をとりまとめるものです。

総合計画は、今後 10 年間の行政におけるまちづくり全般について、ハード、ソフト両面において、各分野が目指すべき施策をとりまとめ、総合戦略は、その施策の中でも人口減少を主とした社会課題の解決に特化し、主にソフト面での具体的な施策・事業をとりまとめたものであり、総合計画における重点施策と整合を図ることとなります。

今後、一定の人口規模の確保が行政運営における課題となる中、総合戦略で人口確保対策を図りつつ、総合計画に沿って施策を推進することで本市全体の振興・発展を進めるという相乗効果により、より効果的・効率的な行政運営を推進することを目指します。



4 時代の潮流

環境の世紀といわれて久しく、また、高度情報化の進展によりグローバルスタンダードがより身近となる一方、人口減少や高齢化等による人口構造の変化、さらには全国的に頻発する自然災害など、様々な想定外の出来事が、市民の暮らしや地域が育んできたコミュニティの再構築を迫る要因となってきています。

本市は、時代の変化に翻弄されることなく、これからも奥能登地域の中心的役割を果たし、歴史を重ねられるよう、将来像を見据えつつ、今後とも着実にまちづくりに取り組みます。

5 輪島市らしさ（強み）

(1) 世界に冠たる「輪島塗」のまち

本市は、「輪島塗のまち」として全国、世界に知られ、地域のブランドイメージが形成されています。漆器産地としての有形無形の地域資源は、世界標準の価値や文化を発信しつつ、人の交流から多様なまちづくりへの展開が期待されます。



(2) 「朝市」を拠点とする観光のまち

コンスタントに年間 60 万人超の観光客を迎える「朝市」は、能登空港や能越自動車道の延伸、北陸新幹線等の交通環境が拡充する中、金沢を誘客拠点の一つに形成される新たなゴールデンルートからの誘客においても、国内外からの誘客促進の要となることが期待されます。



(3) 世界農業遺産「能登の里山里海」を育むまち

平成 23 年 6 月に石川県能登半島に広がる「能登の里山里海」が日本で初めて世界農業遺産に認定されました。そこで評価された、地域の人々の暮らしに根差す多様な資源の総合力が、地域に対する市民の愛着や誇りの醸成にもつながることが期待されます。

